

農林省農技研

日浅治枝子

1. 農村婦人作業衣の一部を占める前かけは、従来、農民が野外労働に際して、下半身を保護し、併せて衣服の汚れを防ぐために重要なものであった。近年、農業技術の急速な進歩によって、さらにその重要性を高めているが、今後それに対応し、より合目的な機能性ならびに防護性を備えた前かけの開発が必要である。そのためには現在各地において用いられている前かけ類の実態を知る必要がある。すなわち、前かけの種類と形態、構造、材質等を明らかにする一方、前かけの現在に至る変遷、ならびにその要因等を分析検討し、今後の方向づけを行ないたい。

2. 昭和27年以後、全国約100カ所の農村地域において、農村婦人と面接し、前かけの実物調査ならびに各種の聞きとりを行なった。

3. 現在各地において用いられる前かけを、使用目的別にみると、家事作業用、農作業用の2種類に分けられる。さらに形態別にみると洋式と和式に分けられるが、家事作業用の前かけは一般的に洋式が多い。

農作業用前かけは従来の和式が多く、その種類も、一巾前かけ、一巾半、二巾、三巾、四巾前かけ、胸当てつきと多様である。しかし近年、四巾前かけは殆んど消滅し、三巾前かけもまた急速に減少している。一巾、一巾半、二巾前かけも地域によっては、洋式形態へ移行する傾向が強く、特に関東以西に著しい。しかし、関東以北においては今なお従来の風習が強く守られているのが注目される。